

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
このたび下記検査項目につきまして検査内容の変更をご案内させていただきます。
先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承の程宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

● 変更実施日 2024年1月9日（火）受付分より

● 対象項目

案内書掲載頁	項目コード	項目名	変更箇所	変更後	現
3	0508	尿アセトン体定性	項目名称	尿ケトン体定性	尿アセトン体定性
4	0549	髄液一般	報告内容	外観（色調） 比重 pH 細胞数	外観（色調） 比重 pH アセトン体（ケトン体）定性 ノンネアペルト反応 パンディ反応 トリプトファン反応 細胞数 蛋白定性 糖定性
5	0561	胸水一般		外観（色調、混濁、フィブリン） 比重 細胞数	外観（色調、混濁、フィブリン） 比重 リバルタ反応 細胞数 ルンベルグ反応
	0576	腹水一般			
	0563	穿刺液一般			

＜備考＞

・ノンネアペルト反応、パンディ反応（髄液）

従来より髄液のグロブリン定性反応として行われてきましたが、真のグロブリン反応ではなく、ノンネアペルト反応は蛋白量が50mg/dL以上、パンディ反応は蛋白量が25mg/dL以上で反応します。蛋白量や免疫グロブリンなどの検査が可能となったため有用性は乏しいとされています。

・トリプトファン反応（髄液）

結核性髄膜炎の補助的診断法として用いられてきましたが、反応機序は未だ明らかでなく、結核性以外の髄膜炎やキサントクロミー髄液でも陽性を示すことがあります。結核菌DNA-PCRなどの検査が確立されているため有用性は乏しいとされています。

・リバルタ反応、ルンベルグ反応（胸水・腹水・その他穿刺液）

滲出液と濾出液の鑑別のために用いられてきた簡易的な検査ですが、滲出液に特異的な反応ではなく、濾出液でも陽性となることもありますので、臨床的意義は低いとされています。滲出液と濾出液の鑑別には蛋白量、細胞数などが有用です。

● 変更理由 検査内容見直しのため